

◎=最も強く学修成果を求めるもの ○=学修成果を重視するもの △=学修成果を望むもの

科目名称	科目コード	授業手法	単位数	知識・理解	コミュニケーション能力	論理的思考能力	問題発見・解決能力	自己管理能力と社会的倫理観	協調性とリーダーシップ
				専攻分野への基本的な知識理解と、社会人としての常識的なモラル理解。社会にとって自らどのような貢献ができるかへの自覚。	グローバル社会の中で確かなコミュニケーションが行える語学力と、他者を思いやる豊かな人間性を身につけ、自分の思いや考えを的確に表現する。	多種多様な情報を収集・分析し、客観的・批判的・分析的・解決志向等により論理的思考能力が高い。	自身の行動についての問題や課題を意識して発見する能力を養うこと。また問題・課題について何をどうすれば解決に導くかを考えるのかを考察、実行する。	学園の行動指針である「学而事人」を実践するためには、社会の規範やルールに従い自らを律して行動ができ、社会の発展のために積極的に貢献することができること。	国内外で他者と協調・協働して行動ができること。コミュニケーション能力や専門的な能力を用いて社会的に貢献できるリーダーシップをもつ目標実現のために先頭に立つて行動できること。
グローバル・コミュニケーション入門	ACG100*X	講義	2	◎	◎	○	○	○	◎
外国語修得法	LN1100*X	講義	2	◎	○	◎	○	△	△
グローバル・コミュニケーションと社会	INT1100*X	講義	2	◎		○	△	○	
イノベーションとリーダーシップ	MGM100*X	講義	2	○		○	◎	△	◎
論理的思考とコミュニケーション	PHL103*X	講義	2	○	○	◎	◎	△	△
数的理解と統計	MTH1000X	講義	2	○		◎	○		
応用言語学	LN3430X	演習	4	◎	○	◎			
言語と心理	LN3330X	講義	4	◎	○	◎			
グローバル・リーダーシップ・セミナーI	##39**X	演習	2	○	◎		◎	○	◎
グローバル・リーダーシップ・セミナーII	##49**X	演習	2	○	◎		◎	○	◎
国際ボランティア	##16**X	実習	2	◎	○	○	○	◎	◎

グローバル・コミュニケーション学群＜英語特別専修・留学2年秋＞履修モデル

英語特別専修に所属して2年次後期より1学期間海外留学し、卒業後は、グローバル企業等の諸分野において活躍を目指す学生の履修モデル

学群指定科目	1年次		2年次		3年次		4年次		小計					
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
学群指定科目	授業科目名 グローバル・コミュニケーション入門	授業科目名 教的思想と統計	授業科目名 英語コミュニケーション	授業科目名 英語コミュニケーション	授業科目名 応用言語学	授業科目名 グローバル・リーダーシップ1	授業科目名 グローバル・リーダーシップII	授業科目名	授業科目名	24				
	2	2	2	2	4	2	2	2						
	外国語修得法	イノベーションとリーダーシップ	2		キャリアデザインI	キャリアデザインII								
	2	2			2									
	自己実現とキャリアデザイン	論理的思考とコミュニケーション	2											
	2	2												
	英語IA	英語IIA	英語コミュニケーションI	実践英語A	英語コミュニケーションII	英語コミュニケーションII	英語通訳I	英語通訳II	4					
	4	4	4	2	4	4	4	4	64					
	英語IB	英語IIB	英語コミュニケーションB	実践英語B										
	4	4	2	2										
中級英語演習	上級英語演習	上級英語演習	実践英語C											
4	4	4	2											
			実践英語D											
			2											
			実践英語E											
			2											
			実践英語F											
			2											
			実践英語G											
			2											
			実践英語H											
			2											
日本語文化系科目群			比較文化論	4		比較人文学特論	4		40					
			日本の近代史	4										
グローバル系科目群			英米文化研究	4	国際教養研究A	2	金融と経済	4	国際政治論	4	現代の産業と企業	4	国際関係論	4
					国際教養研究B	2	英米文化講義	4						
学期計	18	18	20	20	18	16	10	8	合計					
学年計	36		40		34		18		合計	128				

カリキュラム・マップの種類

①マトリクス型（学期×DP）

【説明】

学期とカリキュラム上の目標（DP）における各授業科目の位置づけを示したものの。スコープとシーケンスを同時に表現できるが、科目単位での配置になるため各科目内の目標との詳細な関係を表現できない。集約することで、学期別に科目数の偏りを示すことができる。

【作成方法】

カリキュラム設計者が記入するのが基本であるが、個々の教員が記入したものを集約してマップを作成するところもある。この場合、各担当教員の裁量は高まるが、全体の整合性はとれない。

マトリクス型（学期×DP）

← スコープ：学修経験の範囲と水平的統合 →

DP 学位授与 方針	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
四年次履修		(教養) 科目名 科目名	(専門) 科目名	(専門) 科目名	(専門) 科目名 科目名	(専門) 科目名 科目名
三年次履修		(教養) 科目名 科目名	(専門) 科目名 科目名 科目名	(専門) 科目名 科目名 科目名	(専門) 科目名 科目名 科目名	(専門) 科目名 科目名 科目名
二年次履修	(教養) 科目名 科目名 科目名	(教養) 科目名 科目名 科目名	(専門) 科目名 科目名 科目名	(教養) 科目名 科目名 科目名	(専門) 科目名 科目名 科目名	(専門) 科目名 科目名 科目名
初年次履修	(教養) 科目名 科目名 科目名	(教養) 科目名 科目名 科目名	(専門) 科目名 科目名	(専門) 科目名 科目名	(専門) 科目名 科目名	(専門) 科目名 科目名

↑ シーケンス：学修経験の順次性と垂直的統合

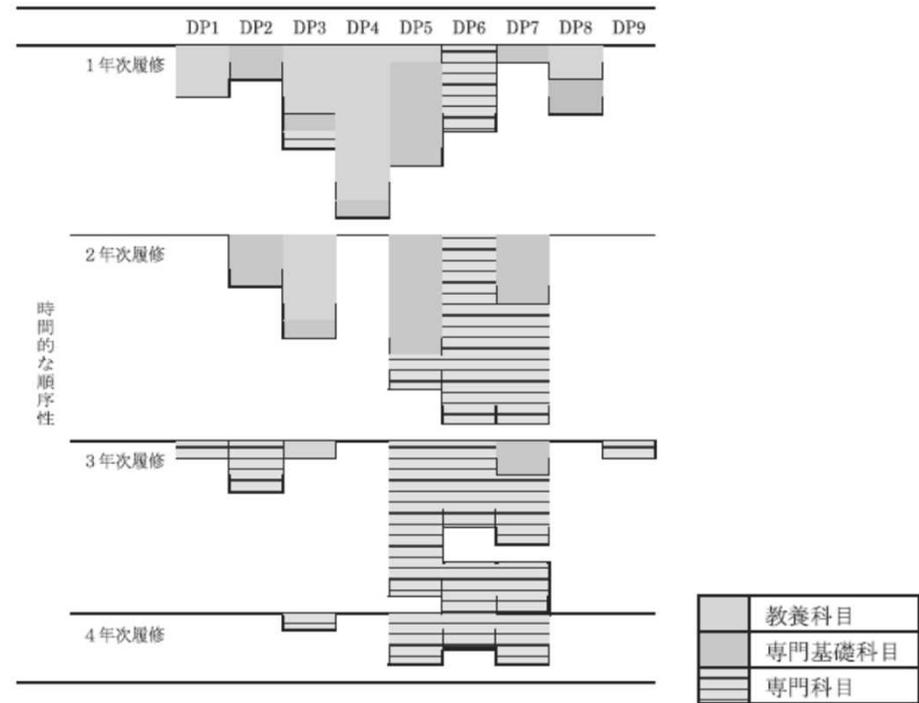


図4 A大学の最新カリキュラム・マップの形

(池田輝政・野口眞弓・佐々木磯美 (2014) 「学位授与方針から設計するカリキュラム・マッピングの提案と実践」 『大学・学校づくり研究』 第6号)

カリキュラム・マップの種類

②マトリクス型（授業目標×DP）

【説明】

授業の目標とカリキュラムの目標（DP）との対応関係を示したものの。両者がクロスする欄に、強く関係している場合には◎、やや関係している場合には○など、関係性を表現するマークを入れる。授業の複数の目標との対応関係を表現できるので、緻密な関係性を表現できる。スコープを絞り込むのに適しているが、科目間のシークエンスを表現できない。

【作成方法】

カリキュラム設計者がチェックを行い、各担当教員はそれに従って授業設計を行うのが基本であるが、個々の教員がチェックを行い、それを集約してマップを作成するところもある。この場合、各担当教員の裁量は高まるが、全体の整合性はとれない。

マトリクス型（授業目標×DP）（愛媛大学法文学部人文学科）

法文学部人文学科のカリキュラム			法文学部人文学科のディプロマ・ポリシー（DP） （◎＝DP達成のために、特に重要な事項、○＝DP達成のために、重要な事項、△＝DP達成のために、望ましい事項）				
	授業の目的（箇条書） （この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書に記入）	授業の到達目標（箇条書） （この授業科目の学習後に到達すべき最低限の（行動）目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書に記入）	（知識・理解） 1. 人文諸学の学問内容及び方法を理解している。	（思考・判断） 2. 自ら設定した課題について、人間文化・地域文化・歴史文化・言語文化のいずれかの学問領域の研究方法を用いて、考察することができる。	（関心・意欲） 3. 人文学の知を実践の力へと高めることができる。 4. 社会における自分の役割を自覚することができる。	（態度） 5. 人文学の知をもって地域社会及び国際社会のニーズに応えることができる。 6. 生きた文化や生きた社会を創ることに寄与できる。	（技能・表現） 7. 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によつて的確に伝えることができる。
思想文化論	17～18世紀にイギリスに於いて展開された哲学思想（いわゆるイギリス経験論哲学）を取り上げ、それぞれの哲学思想を考察することによつて、哲学史的知識を修得すると同時に、哲学的思索の特質について理解することを目的とする。	1 イギリス経験論哲学の特質を理解する。 2 哲学的概念の意味を理解する。 3 哲学的思索に習熟する。	1 ◎ 2 ◎ 3 ◎	1 ○ 2 ○ 3 ◎		3 △	

カリキュラム・マップの種類

③チャート型

【説明】

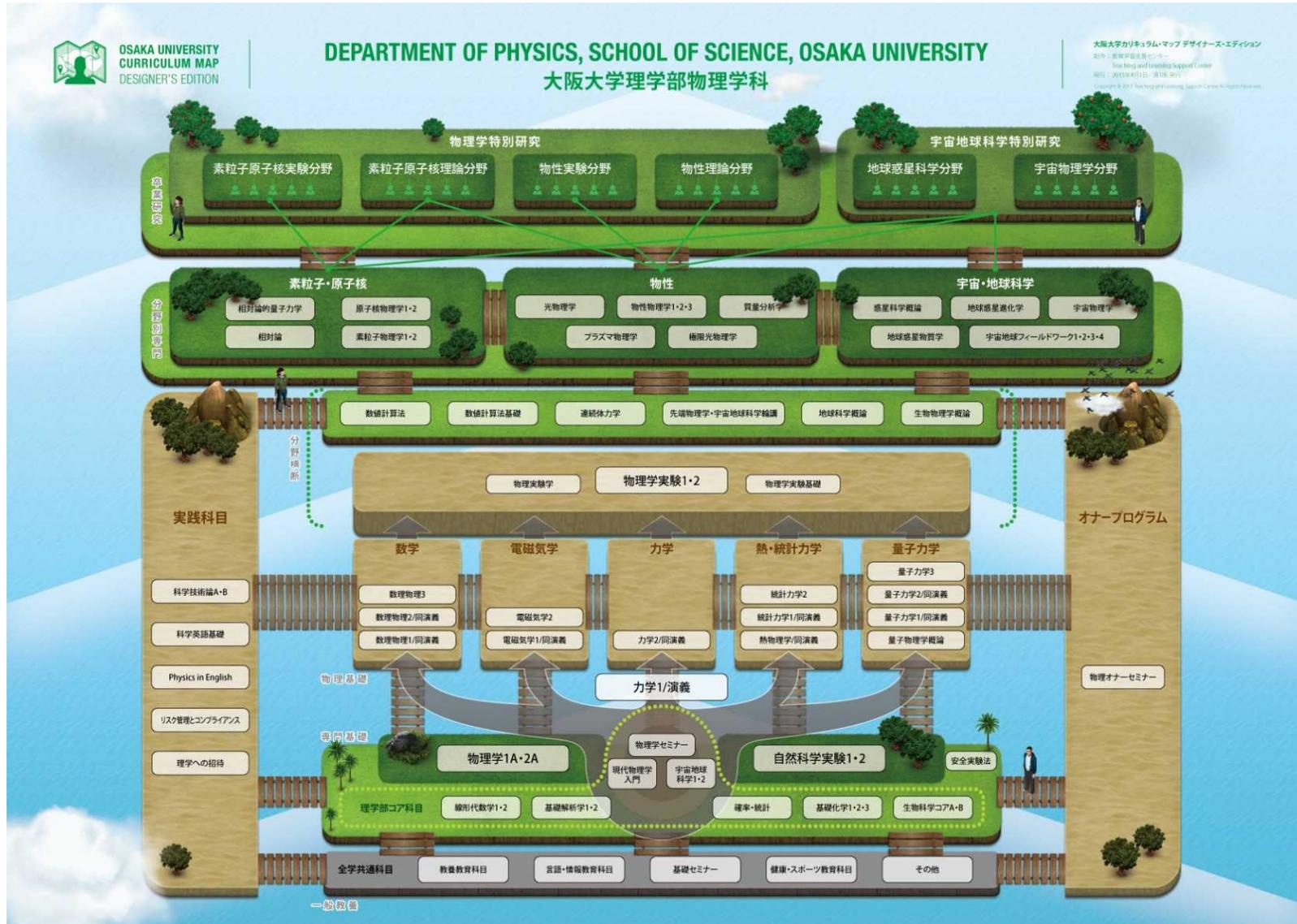
科目間の関係を図示したもの。内容の重複や相違、学習順序などを示すことができる。表現できる内容は多様。カリキュラムツリーと呼ばれることもある。

【作成方法】

担当者が一人で作成することも可能ではあるが、複数の組織構成員でワークショップとして作成すると、カリキュラムの現状把握と課題発見ができるという点で、FDとしての効果が高い（次頁参照）。

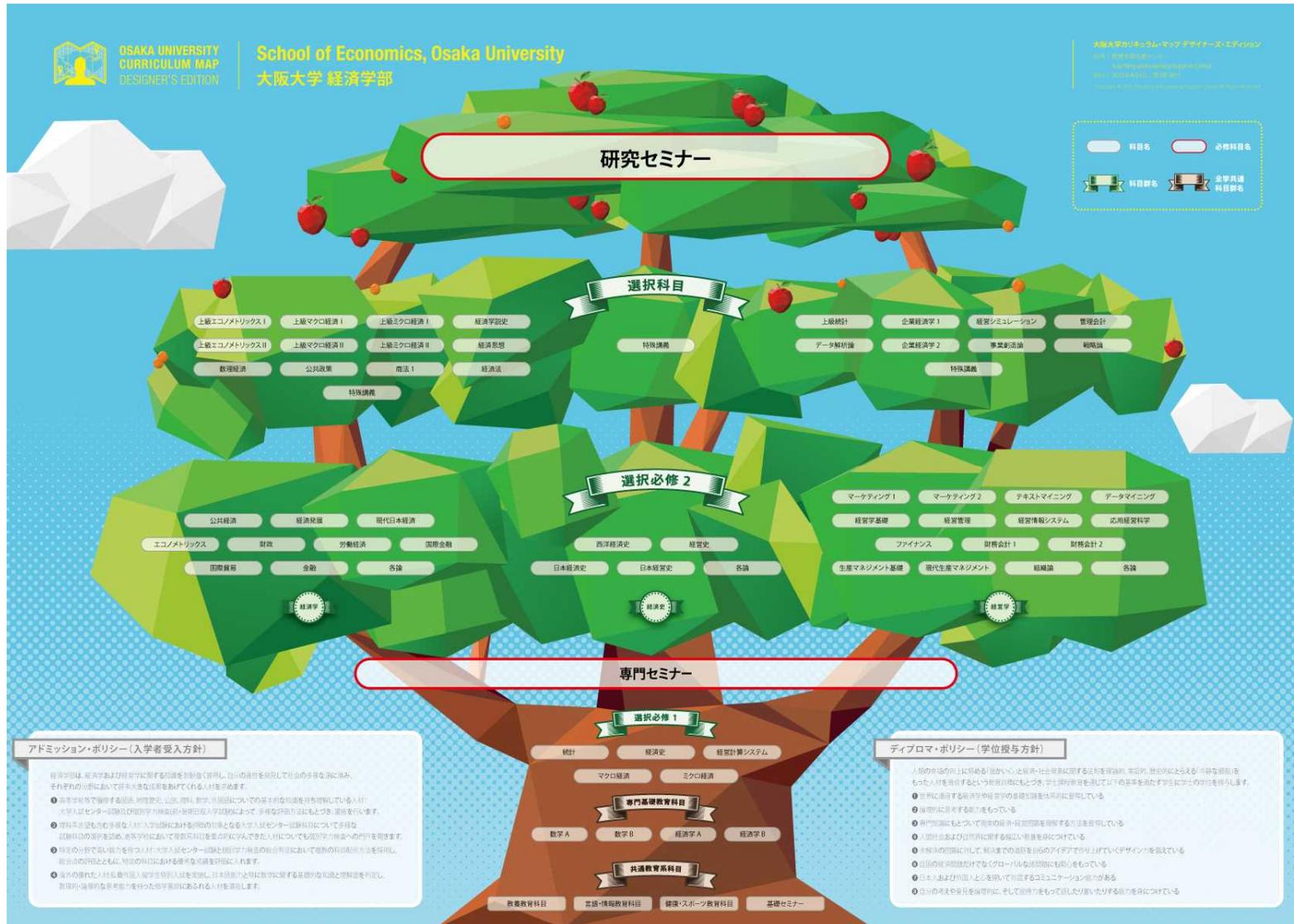
（佐藤浩章（2010）「カリキュラム・ポリシーの策定（学士課程教育体系化のステップ第3回）」進研アド『Between』2010年秋号）

チャート型（大阪大学理学部物理学科） デザイナーズエディション



<https://www.ryoshimizu.net/portfolio-posts/cmded>

チャート型（大阪大学経済学部） デザイナーズエディション



<https://www.ryoshimizu.net/portfolio-posts/cmded>

【作成方法】

1. 読み手であるターゲットを確定し、カリキュラムの特徴を3つ挙げる（カリキュラム・アピールポイント・シート参照）。
2. 授業科目シールを付箋に張り付ける（付箋の色も工夫する）。
3. 模造紙上に順序や関係を意識して科目を並べる。3つのアピールポイントが表現されているかどうか意識する。
4. 矢印や囲みを使って関係を図示する。必要に応じてアイコンも使う。
5. 完成後にポスター発表を行い、他学科教員からフィードバックを受ける。
6. 電子ファイル形式で提出してもらう。

力学 I	力学 II	応用数学 I	応用数学 II	工学基礎実験
確率・統計	材料科学序論	工学実験英語	数値計算法	技術英語
プログラミング演習	機械製図法	製図基礎実習	機械製作実習	CAD実習
機械設計法	機械設計演習	設計製図	機械工学実験	創造設計製作
卒業論文	材料力学 I	材料力学演習	熱力学 I	熱力学演習
機械製作学	機械力学 I	力学演習	流体力学 I	流体力学演習
機械材料学 I	制御基礎理論	制御基礎理論実習	伝熱工学	伝熱工学演習
機械工学	化学の世界	材料力学 II	精密工学	熱力学 II
電気電子工学概論	機械力学 II	機械材料学 II	流体力学 II	制御工学
機械電子制御	材料強度設計学	応力解析学	材料創成工学	流体力学
熱機関工学	設計工学	ロボット工学	生産システム工学	エネルギーシステム工学

授業科目シール



作成風景

I カリキュラム編成の高度化

学修成果の可視化のプロセス(山梨県立大学)

3つのポリシー(*)の見直しから始める

1. 学士力の策定

→ 全学レベル(学士基盤力) 学部レベル(学士専門力)
及び教職課程(学士教職力)ごとに設定



2. カリキュラムマップ・ツリーの作成

→ 全1,200科目ごとの学士力を決定



3. 新授業評価制度の設計

→ 学修成果の項目を設定



4. 実施(学修成果の可視化)

→ 学修成果の数値化を実現



学士基盤力(全学共通)カリキュラムマップ(山梨県立大学)

科目区分 科目名 単位数 授業形態 自然・社会・文化理解 想像力・表現力 実践力・問題解決力 人間関係形成力 自己学修力 地域・国際コミットメント

分類	科目名	単位数	授業形態	自然・社会・文化理解	想像力・表現力	実践力・問題解決力	人間関係形成力	自己学修力	地域・国際コミットメント	
科目数				99	46	14	19	85	46	
全学共通科目										
基礎科目	スタートアップ・セミナー	1	演習	0	0	0	0	0	0	
	外国語	総合英語 I a	2	演習	0	0	0	0	0	0
		総合英語 I b	2	演習	0	0	0	0	0	0
		総合英語 II a	2	演習	0	0	0	0	0	0
		総合英語 II b	2	演習	0	0	0	0	0	0
		英語コミュニケーション a	2	演習	0	0	0	0	0	0
		英語コミュニケーション b	2	演習	0	0	0	0	0	0
		中国語 I a	2	演習	0	0	0	0	0	0
		中国語 I b	2	演習	0	0	0	0	0	0
		中国語 II a	2	演習	0	0	0	0	0	0
		中国語 II b	2	演習	0	0	0	0	0	0
		韓国語 I a	2	演習	0	0	0	0	0	0
		韓国語 I b	2	演習	0	0	0	0	0	0
		韓国語 II a	2	演習	0	0	0	0	0	0
		韓国語 II b	2	演習	0	0	0	0	0	0
		スペイン語 I a	2	演習	0	0	0	0	0	0
		スペイン語 I b	2	演習	0	0	0	0	0	0
		スペイン語 II a	2	演習	0	0	0	0	0	0
		スペイン語 II b	2	演習	0	0	0	0	0	0
	フランス語 I a	2	演習	0	0	0	0	0	0	
	フランス語 I b	2	演習	0	0	0	0	0	0	
	フランス語 II a	2	演習	0	0	0	0	0	0	
	フランス語 II b	2	演習	0	0	0	0	0	0	
	日本語 A	2	演習	0	0	0	0	0	0	
	日本語 B	2	演習	0	0	0	0	0	0	
	日本語 C	2	演習	0	0	0	0	0	0	
	現代日本事情	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	情報リテラシー	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	生涯と情報	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	健康	運動と人間—講義	2	講義	0	0	0	0	0	0
運動と人間—実践 I		1	実技	0	0	0	0	0	0	
運動と人間—実践 II		1	実技	0	0	0	0	0	0	
運動と人間—実践 III		1	実技	0	0	0	0	0	0	
運動と人間—実践 IV		1	実技	0	0	0	0	0	0	
生涯と健康	2	講義	0	0	0	0	0	0		
キャリア形成	キャリアデザイン I	2	演習	0	0	0	0	0	0	
	キャリアデザイン II	2	演習	0	0	0	0	0	0	
人間と社会の理解	インターンシップ	1	実習	0	0	0	0	0	0	
	人間と環境	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	人間と環境—倫理	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	人間と環境—管理	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	人間と環境—文化	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	人間と文化	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	人間と心	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	人間と社会	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	社会と歴史	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	社会と政治	2	講義	0	0	0	0	0	0	
社会の理解	社会と経済	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	社会と法	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	日本国憲法	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	学習の科学	2	講義	0	0	0	0	0	0	
現代社会の理解	生物の科学	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	生涯と化学	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	キャリアデザインの基礎	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	環境論	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	ジェンダー論	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	グローバル化論	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	山梨学 I	2	講義	0	0	0	0	0	0	
山梨学 II	2	講義	0	0	0	0	0	0		
キャリア形成	日本史の方言と山梨	2	講義	0	0	0	0	0	0	
	プレゼンテーション	2	演習	0	0	0	0	0	0	
	グループワーク	2	演習	0	0	0	0	0	0	
	キャリアデザイン基礎	2	講義	0	0	0	0	0	0	
生涯と教育の心構え	2	講義	0	0	0	0	0	0		